

普及項目	増殖
漁業種類等	採藻漁業
対象魚類	トサカノリ
対象海域	天草海

五和町におけるトサカノリの増殖指導について

天草広域本部水産課・金棒 千明

【背景・目的・目標（指標）】

トサカノリは、刺身のツマや海藻サラダとなる食用海藻で、採藻してそのまま生で出荷でき、また、単価も 400～600 円/kg 程度と高いことから、裸潜漁業を行っている漁業者の大きな収入源となっている。

一方で、トサカノリは単年生の海藻で、資源量の増減が激しく、収入が安定しないことから、天草漁協五和支所裸潜組合では、スポアバック投入による増殖取組を実施している。しかし、スポアバック方式は大量の母藻が必要であることから、資源量が少ない年は母藻が確保できず、取組が十分に実施できていない状況である。そのため、令和 5 年度は少ない母藻で増殖が可能な人工種苗を用いた増殖に取組むこととした。

そこで当水産課では、漁協施設を利用したトサカノリの人工採苗及び、その個体を用いた増殖取組の技術指導を実施した。

【普及の内容・特徴】

トサカノリの人工採苗は、7 月 10 日に天草市五和町二江地先で採取され、成熟を確認したトサカノリ藻体約 2kg を用い、天草漁協五和支所の屋外水槽で実施した。トサカノリの胞子を付着させる基質にはトリカルネット、ポリロープ及び真砂石を用い、採苗から 2 日後の 7 月 12 日から 8 月 25 日まで 2 週間に 1 回の頻度で顕微鏡を用いて観察した。

【成果・活用】

採苗開始から 2 日後の 7 月 12 日に顕微鏡で基質を確認したところ、トリカルネットとポリロープ、真砂石上に直径約 0.02 mm の胞子の定着を確認することができた。

胞子は 7 月 26 日（採苗開始から 16 日）に 0.05 mm、8 月 8 日（採苗開始から 29 日）には 0.05 mm まで生長した。しかし、8 月 25 日に確認したところ、ヒドロ虫及び珪藻の付着が激しく、トサカノリの藻体を確認することができなくなった。

本県での漁業協同組合及び漁業者によるトサカノリの人工採苗は初の試みである。今回の取組により、漁協施設を利用したトサカノリの人工採苗は可能であることがわかった。しかし、生海水を使用していることによる雑藻やヒドロ虫の付着等、定着した胞子の育成段階に課題があることが分かった。

今後は、簡易ろ過装置の導入や育苗期間の短縮、珪藻繁茂抑制のため日光調整等の付着物対策手法について検討し、トサカノリの増殖取組につなげることができるよう指導を行う。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図1 成熟を確認したトサカノリ母藻



図2 人工採苗に用いた母藻（約 2kg）



図3 屋外に設置した水槽



図4 採苗から2日後の種苗の様子
(7月12日)

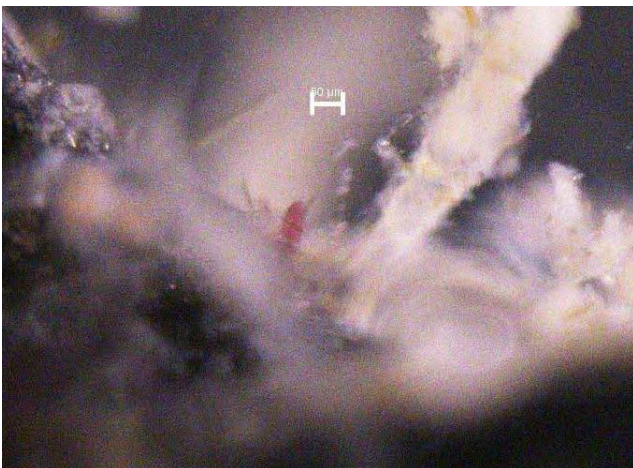


図5 採苗から29日後の種苗の様子
(8月8日)